

1. はじめに

土橋遺跡では、現在、B区（一部、C区）下面（縄文時代後期前半：約 4,000～3,500 年前）の調査を行っています。今年は暖冬ですが、雪・雨対策としてテントを設置して作業を行っています（第1・2図）。



第1図 発掘調査のようす



第2図 出土遺物の記録作業

2. 発掘調査の状況

埋設土器

下面の調査では、埋設土器（まいせつどき）が見つかりました（第3図）。埋設土器は、地面に穴を掘って土器を埋めたものです。埋設土器には、正立したもの、土器の底を上にして逆さに埋めたものなど様々なタイプがあります。

第3図の土器は、正立した状態で、ほぼ完全な形で出土しました。穴を掘った跡は、周りの土に比べてやや暗い色をしています。また、土器を埋めるために掘った穴は、土器の大きさとはほとんど変わらないことから、必要最小限に掘られていたことがわかりました。今後は土器の中の土を回収して、土器内部の調査をおこない、埋設土器が何に使われたものか、考えて行きたいと思います。

地震痕跡

調査区では、地震の痕跡がたくさん見つかっています。第4図は地震の影響により、縄文時代後期の黒色土層がちぎれて、1m以上陥没している様子です。

上面の調査（平安時代：約 1,000 年前）で見つかった建物の柱穴は、地震の影響を受けていませんでした。このことから、地震は縄文時代後期以降～平安時代の間に行ったものと考えられます。



第3図 埋設土器



第4図 地震痕跡

